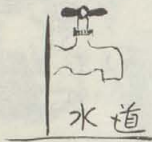


# 水道のしごと



市の水道事業は、共同井戸から竹管で給水したり、組合簡易水道などを設けて井戸水を配給していた時代を通じ、八尾町と竜華町の上水道が開設されてから今年で25周年を迎えます。

市は、その発足以来、住宅都市、工業都市として目ざましい発展をとげてきましたが、年々給水量も激増しております。水道事業は内容の整備と充実を計って行かなければならない段階にきています。現在の水道給水施設は、すでに市の発展に応じて十分な水を給水できませんので、昭和38年4月から第三回拡張工事に着工、総工費15億円で6ヵ年の継続事業をすすめています。

## 事業会計 (37年度決算)

収益的収入	(円)
水道事業収益	217,413,670
営業収益	211,243,684
営業外収益	6,169,986
収益的支出	
水道事業費用	200,515,433
営業費用	182,462,088
営業外費用	18,053,345
期間外費用	398,500
資本的収入	23,200,264
企業債	0
固定資産売却代金	835,616
工事負担金	0
他会計から繰入金	20,000,000
急設配水管工業受入金	2,364,648
資本的支出	54,438,602
建設改良費	41,338,486
企業債償還金	13,100,116

## 各水源池の配水量 (37年度中)

水源池	年間配水量 (m <sup>3</sup> )	一日平均 給水量 (m <sup>3</sup> )
八尾水源池	4,633,402	12,694
竜華水源池	2,630,040	7,206
南高安水源池	445,170	1,220
高安水源池	386,798	1,059
志紀水源池	404,705	1,108
曙川受水場	144,570	396
竹淵受水場	256,905	704
久宝寺受水場	967,040	2,649
計	9,868,630	27,036

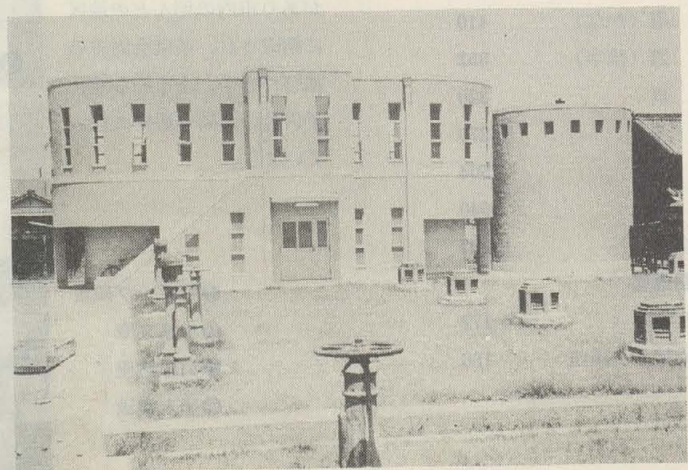
## 年間使用水量

(カッコ内は1ヵ月平均)

家事専用	3,941,485 m <sup>3</sup>	(328,457)
家事共用	87,492	(7,284)
官公署用	293,57	2(24,464)
営業用	2,134,778	(177,898)
浴場用	427,251	(35,604)
臨時用	98,799	(8,233)
計	6,983,287	(581,940)

## 水道料金

用途	基本料	基本料金	超過料金
家事専用	八立方方	一七〇円	二六円
官公署用	八立方方	一七〇円	二六円
学校・病院・学	八立方方	一七〇円	二八円
社会・営業	八立方方	一七〇円	二〇円
浴場・営業	三立方方	四八〇〇円	二〇円
プール用	千立方方	①一万六千円	二〇円
臨時用	一立方方	②八千円	二一円

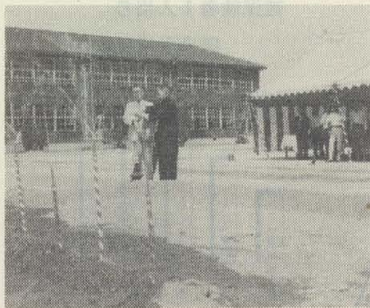


上水道

大阪市から受水

大阪市と行政協定が結ばれてから、着々協力事業が進んでいます。当市の上水が不足している折から、大阪市の給水協力をうけることになり、昭和37年4月以来、給水管の敷設工事を行ない、8月24日、竹濑小学校運動場で通水式が行なわれました。

この受水によって、当市の給水能力は約4万トとなり、当分の間は需要最盛期でも十分給水できるようになりました。



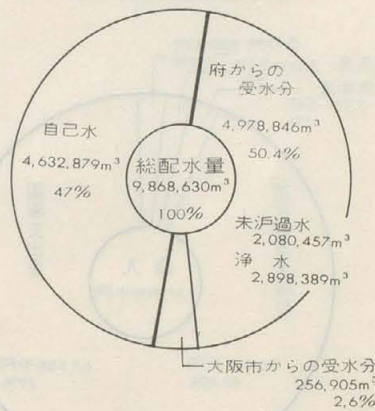
通水式

給水栓数 (38.3.31現在)

家事専用	26,666
共用	242
官公署用	155
営業用	1,378
浴場用	67
臨時用	55
計	28,565

受水状況

一日平均配水量27,037m<sup>3</sup>  
一日最大配水量37,740m<sup>3</sup>



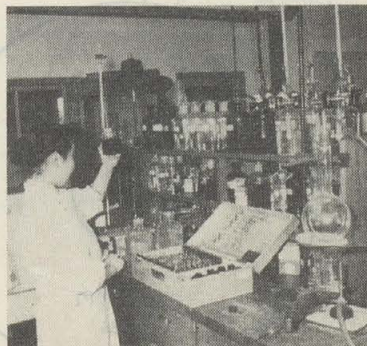
給水普及状況 (38.3.31現在)

給水区域内人口	137,668人
戸数	34,872世帯
給水人口	121,970人
戸数	30,957世帯
普及率(人口)	88%

人員配置表

	庶務課	業務課	工務課	水質試験場	計
役職員	5	3	3		11
事務員	6	4			10
技術員		1	2	2	5
事務員	7	23		1	31
技術員	4	13	21		38
嘱託		8	1	1	10
計	22	52	27	4	105

水質試験所



水質試験所

昭和31年10月八尾水源地区内に水質試験所を設け、毎日市内末端の水質検査や一般市民から申込みがあれば水質検査、浄化指導、水道用資材の受託試験をしています。また、市独自の研究によって完成した二重濾過装置によってよりよく能率化し、酸化、還元電位測定器によって高度の除鉄、除マンガンの研究を行なっています。

今後の計画

昭和35年度に第二回拡張工事を完成したばかりですが、近時の急速な市勢の発展と生活水準の向上にともなう使用水量の急増は、当初の予想を遙かに上廻り、今後この傾向はますます助長される状態です。

このため、町村合併前に各々の町村が布設した志紀上水道や南高安、高安、曙川の各簡易水道を廃止統合して、昭和45年度を目標に次のような第三回拡張工事に着手しています。

計画給水人口	166,000人
1日最大給水量	54,780m <sup>3</sup>
1日平均給水量	39,848m <sup>3</sup>
1人1日最大給水量	0.330m <sup>3</sup>
1人1日平均給水量	0.240m <sup>3</sup>
1日取水能力	57,498ミ
取水ポンプ	388馬力
導水管 口径150~800mm	2,919m
浄水池	9,110m <sup>3</sup>
受水池	3,360m <sup>3</sup>
塩素滅菌装置	17基
送水ポンプ	600馬力
発電機	875KVA
送水管 口径125~800mm	1,790.5m
配水池	10,310m <sup>3</sup>
ベンチュリー・メーター	7基
量水井	1基
酒水管 口径75~1900mm	222,279m



## 国民健康保険

当市の国民健康保険事業は、昭和34年6月、5割給付で始めました。

当初の医療費総額は月580万円程度でしかありませんでしたが、最近では1,760万円と約3倍に伸び、被保険者の医療機関利用率は飛躍的にふえています。

保険給付の内容も毎年改善し、35年2月には給付拡大、36年4月には世帯主に対する給付率を7割に引きあげました。

保険事業とともに、保険課では保健育児、長期疾病療養者の指導なども実施するほか、所得の低い被保険者の負担を軽くするため、保険税や一部負担金の軽減を図ってきています。

### 被保険者数と給付の内容

被保険者数	42,372人
(人口との比率)	30.6%
該当世帯数	11,831世帯
(全世帯との比率)	33.8%
給付率—世帯主—	70%
—家族—	50%
給付期間	治癒するまで
助産費	1件当り 1,000円
葬祭費	1件当り 2,000円

## 国民健康保険事業費の収支

国民健康保険の主な事務事業は、保険給付と財源の確保です。

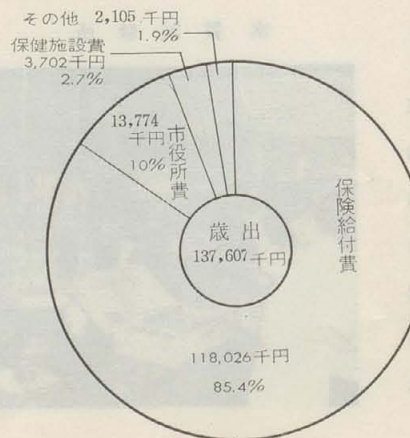
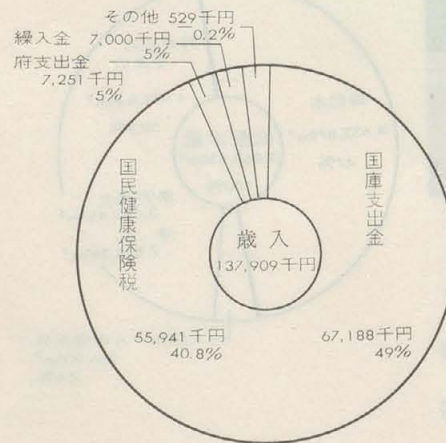
保険給付は、年々行なってきた給付拡大や療養費、受診率の増加によって急増する傾向にあります。一方これに

要する財源は大部分が保険税収入によっていますが、当市では税率は当初から据置いたまゝで運営を行なっていますので、これら給付費の増大はそれに見合う財源を必要としています。

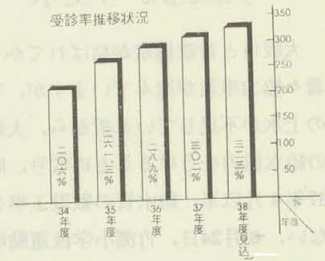
しかし低所得階層が大きな比重を示めている保険財政では、保険税の引上げによる財源の確保は困難です。

当市では、これに対処して事務費の節減と、保険税の完全徴収によって、健全財政を維持するよう努力しています。

37年度事業費収支決算

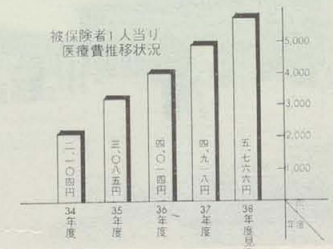


受診率推移状況

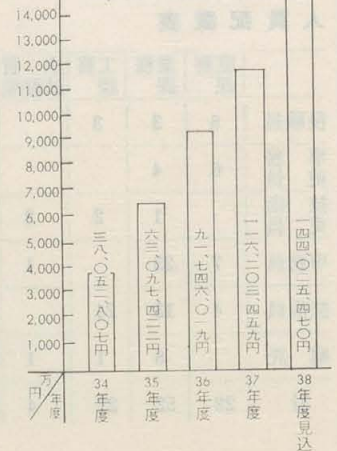


被保険者1人当り

医療費推移状況



療養諸費 年度別推移状況



### 予防接種と健康診断

私達の周囲には、目に見えないウイルスや恐ろしい伝染病の病原菌が常に活動しています。これらの病原菌におかされるのを防ぐため、市では予防接種法による予防接種を行なっています。また、すでに疾病にかかっている人を少しでも早く発見し、早期治療をするための健康診断、乳幼児の健康診断、成人病の精密検査、保健婦活動による結核患者の適切な療養と家族の感染予防なども行ない、疾病の予防に万全を期しています。

#### 予防接種と受診率

種別	受診者	受診率
第1期定期種痘	1,926	85.3%
第 <sup>1</sup> / <sub>3</sub> 期急性白髄炎	1,325	93.0
第2期 "	604	74.0
腸パラチフス	21,313	90.9
日本脳炎	4,475	28.5
第 <sup>2</sup> / <sub>3</sub> 期定期種痘	4,269	96.3
一般住民健康診断	3,035	10.1
三才児健康診断	1,112	52.9
一般住民健康診断(ツ反)	4,521	15.1
小児マヒ生ワク	19,545	70.5
ジフテリア、百日咳	2,718	79.7

#### 予防接種



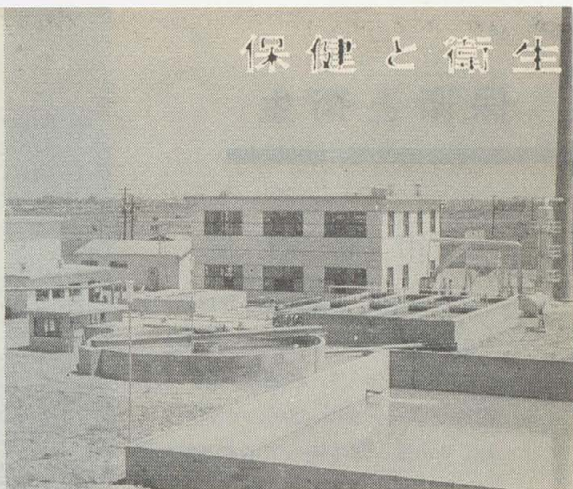
### 環境衛生

市民が健康で明るい生活するためにはまず環境を整備しなければなりません。市ではゴミ、し尿の処理などの衛生事業を行ない、美しい街づくりに努力しています。最近の消費生活の高まりによって、ゴミは年々増加する傾向にあります。これらのゴミをきれいに清掃し、街を美しくするため、清掃車18台(四輪大型トラック1台、四輪小型トラック1台、三輪ダンプ15台、ウエーボン・キャリアー1台)清掃作業員60数人で週一回の戸別の収集を行ない、昨年一年間で2,556万トンを処理しています。

し尿の処理については、市内の清掃協同組合に委託し、20日に一回の汲取作業をしていますが、昨年、衛生処理場が建設されたので終末はここで化学的に処理されています。

また、恐ろしい伝染病から私達の健康を守るために、4衛生班を編成し、病原菌をまきちらすハエ、蚊、ネズミなどのそ族昆虫類の駆除、それらの発生の温床となる下水排水溝の清掃や薬剤の配布、撒布を行なっています。

またこれらの事業に対して、市内の衛生婦人奉仕会や地区民も積極的に協力され、環境衛生の整備に努力されています。



し尿処理場

### 衛生処理場

都市の近代化が進むにつれて、完備した衛生施設が必要になりますが、本市では37年6月にヤマダ式し尿化学処理方式による新企画の衛生処理場が八尾市上尾町に完成しました。その処理能力は1日8時間稼働して約五百石の処理ができ、人口九万人のし尿処理を受持つことができます。この装置は、

し尿中の汚染物質が完全に除去される。

し尿中の病原菌、寄生虫卵は薬剤によって皆無となる。

全操作が完全無臭に行なわれ、周辺から苦情が起らない。

処理が迅速でその日のし尿をその日の内に処理できる。

固形残渣は完全な灰となり、少量で衛生的である。

集中管理、自動制御の全面的採用によって、操作が簡単である。などの特色を持っています。

#### 法定伝染病発生状況

年度	赤痢	疑似赤痢	疫痢	猩紅熱	腸チフス	ジフテリア	流行性脳脊髄膜炎	疑似日本脳炎	急性灰白髄炎	パラチフス	赤痢保菌者	計
	痢	痢	痢	熱	ス	ア	炎	炎	ス	者		
35	61	126	17	12	0	57	2	2	2	0	65	344
36	38	102	12	6	2	20	4	1	2	0	38	225
37	44	74	4	24	3	27	0	2	0	1	25	204

# 保衛と衛生

## 市立病院

市立病院は、昭和23年2月13日、日本医療団八尾病院を母体として開かれたもので、内、外、産婦人、歯、放射線科の5科と病床32床の小病院でした。その後、年を迫っての患者数の増加と共に拡張をつづけ、31年秋の鉄筋館の完成、32年の組合立八尾伝染病院の併設、看護婦宿舍の建設など遂次大病院としての形態を整えました。その結果、32年8月には総合病院となり、本市のみならず広く東大阪の基幹病院としてなくてはならない重要な施設の一つとなりました。さらに36年1月には大がかりな増改築工事が竣工し、病床375、10科の近代的大病院に充実されました。また38年7月からは全国でめずらしい試みとして小児ぜんそくによる虚弱児を入院の上、規則正しい生活や抵抗力をつける訓練などを行なう「ぜんそく虚弱児教室」を開設するなど、常々新しい医療の提供に努めています。当病院の利用者は1日平均外来患者で566人、入院患者は284人（37年度中）あり、年間ではそれぞれ170,474人と103,546人にのぼっています。

### 診療科目

- 内 科
- 外 科
- 整形外科
- 産婦人科
- 小児科
- 眼 科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 歯 科

### 病床数

一般病床	263床
結核病床	46床
伝染病床	66床



虚弱児教室

## 伝染病院

明治29年3月、旧八尾町ほか23カ町村の組合組織で旧穴太地区に八尾伝染病院としてつくられました。その各町村とも人口が増え、建物も老朽化しましたので、昭和32年4月現在地に移転しました。現在は隣接4市の組合組織で運営されています。

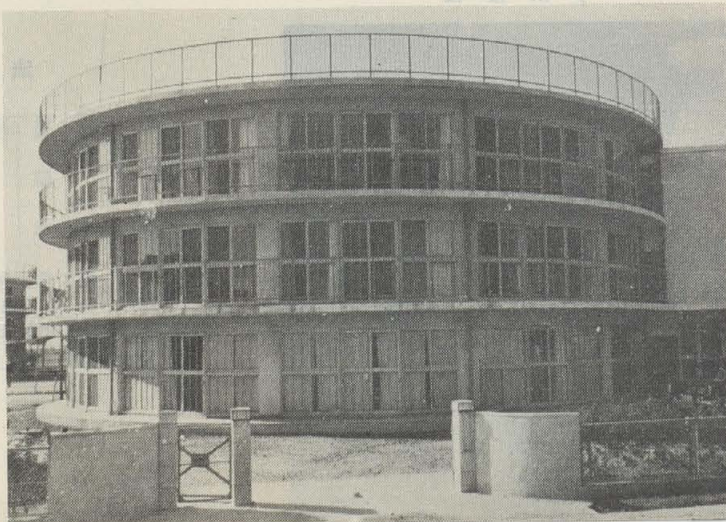
### 市内、市外患者構成の推移

(各年度は歴年による)

年度	外 来		入 院	
	市内	市外	市内	市外
34	80.7	19.3	64.5	35.5%
35	80.1	19.9	67.8	32.2%
36	83.2	16.8	65.1	34.9%
37	77	23	62	38%

患者年度	外 来	入 院
	延 数 と(一日平均)	延 数 と(一日平均)
26	38,386 (126)	20,043 (55)
27	36,542 (121)	33,528 (91)
28	65,782 (219)	52,335 (143)
29	79,521 (266)	60,730 (166)
30	97,721 (328)	63,593 (174)
31	112,811 (376)	66,096 (181)
32	121,779 (407)	78,203 (214)
33	138,380 (463)	84,415 (231)
34	150,202 (562)	82,319 (226)
35	159,197 (532)	84,754 (232)
36	159,573 (530)	79,286 (212)
37	167,462 (556)	101,749 (279)

八尾市立伝染病院



## 都市計画

昭和30年以来、旧三野郷、高安、南高安、曙川、志紀の町村を合併して、当市は急速な発展をとげてきましたが、全市域の統一計画を計るため、全市域を都市計画区域と定めて、交通、観光事業等をすゝめてきました。

当市は、早くから隣接の大阪市と市民経済生活上、密接につながり先ごろ行政協定が結ばれました。当市の将来は衛星都市としての機能の充足よりも、関西経済圏の中心である大阪市とともに広域行政の中で都市計画を実行してゆかなければなりません。当市域の広い農地と山麓は、大阪市の諸施設計画、産業配置、住宅、レクリエーション・センターなど、最適の活用地域として将来の発展が期待されています。

## 町名地番の改正

市内の町名地番を改正する事業は、恩智川以西の約25平方畑の地域（全市域の60%）を、昭和34年からの5ヵ年計画で進めていますが、37年12月で第7次改正が終り、11平方畑が改正されました。

この事業は、明治以前からひきつがれてきた大字と小字区域や地番が入り乱れていること、地区の名称が正しい呼名と通称とが乱用されていることなどの不都合をなくし、新しい市民生活に適合した近代的な町名地番に改めるものです。

現在までに改正された新町名は今のとおりです。（丁目は略）

〔策1次改正〕—35.4.18—

北本町、山城町、本町、清水町、光南町、栄町、末広町、宮町、佐堂町。

〔策2次改正〕—35.8.1—

東本町、南本町。

〔策3次改正〕—35.11.3—

新家町、山賀町、泉町、桂町、幸町、高砂町。

〔第4次改正〕—36.7.17—

西山本町、山本町、山本町北、上之島町南、上之島町北、上尾町、福万寺町南、福万寺町、福万寺町北、福栄町。

〔第5次改正〕—36.11.27—

東山本町、小阪合町、南小阪合町、山本町南、東山本新町、山本高安町。

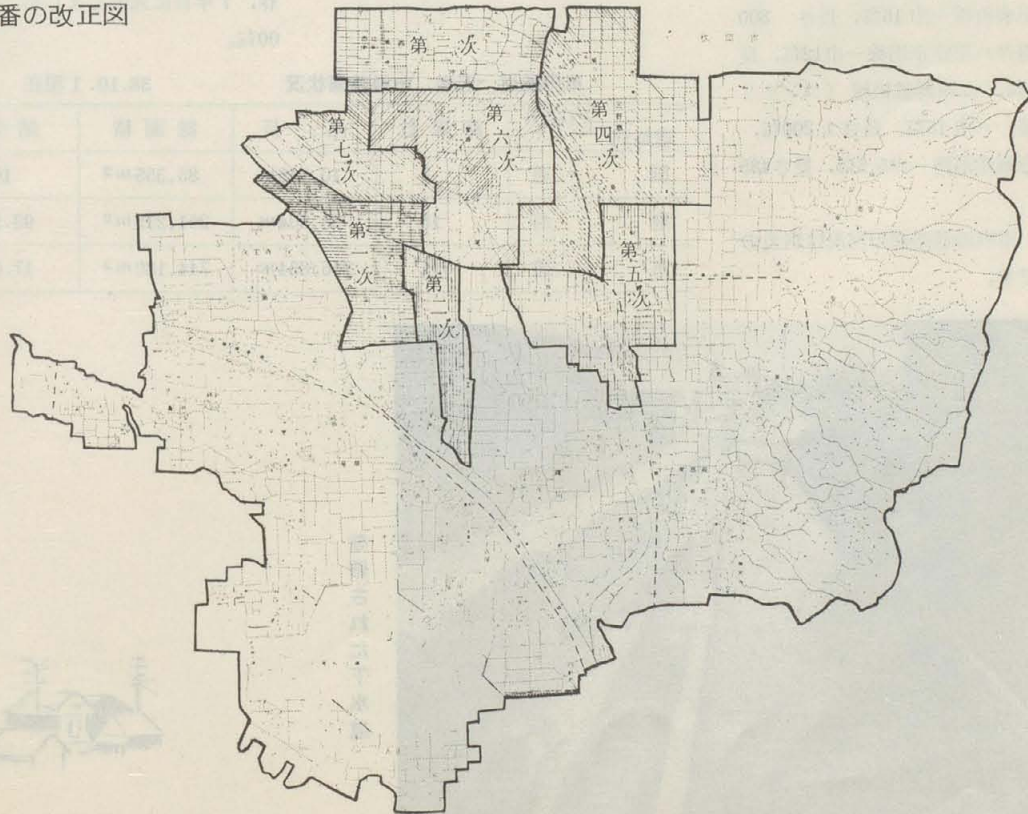
〔第6次改正〕—37.7.9—

小畑町、長池町、堤町、萱振町、楠根町、光町、桜ヶ丘、緑ヶ丘、旭ヶ丘

〔第7次改正〕—37.12.17—

北本町、山城町、宮町、美園町、久宝園。

地名地番の改正図



# 都市の整備

## 道路

大阪都市圏の中核である中央環状線と外環状線の着工が急がれている現在、当市の街路事業もこれに合わせて土地利用の高度化を計り、中心部は約500m間隔、周辺部では約1000m間隔に、都市の骨格としての街路を基盤の目に配置するよう事業をすすめています。計画路線は萱振一曙川線のほか30路線が決定していますが、継続事業として行ってきた次の路線が37年度に完

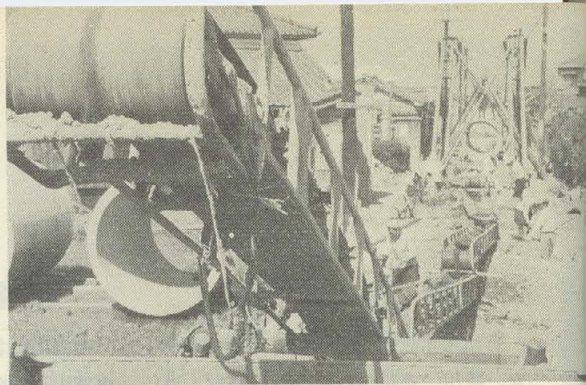


補装された道路

成、市内の交通緩和に役立っています。

△八尾表町線一巾15m、長さ800m、△亀井八尾停車場線一巾12m、長さ1,750m、△西郷植松線（コンクリート舗装）一巾15m、長さ1,200m、△梅岩寺観光道路一巾5.5m、長さ485m。

なお、市内の道路網の現況は別表のとおりです。



下水工事

## 下水

昭和35年12月から着工した公共下水道築造工事は、まず第一期工事として、長瀬川右の市街地222mを工費8億6千万円で計画実施しています。

今のところ当市には下水道法による下水道がないため、市内を南北に流れる農業用水路を利用して排水している現状で、市民の保健衛生上からも好ましくありません。急速に都市化が進んでいる当市にとって、下水道を設けることは当面の急務です。最初の5ヵ年計画では排水面積65.23%、管渠延長14,023mを工費3億3,900万円で行っています。

## 河川

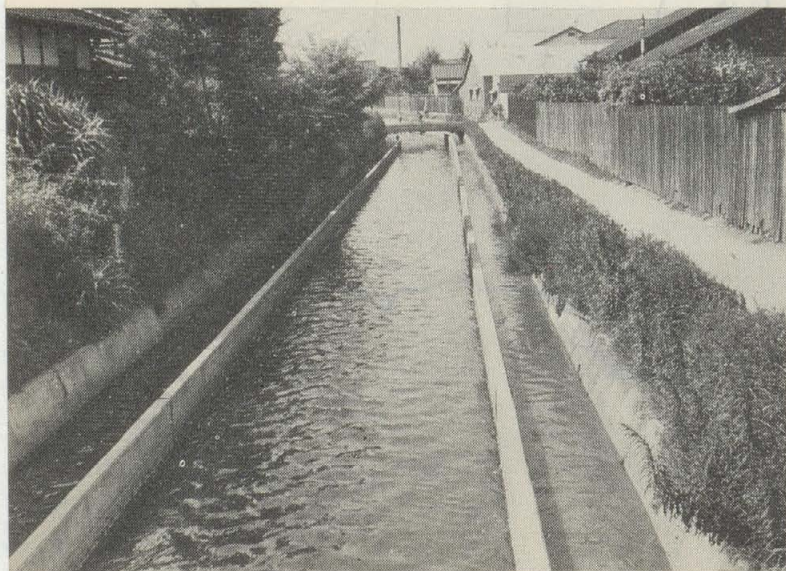
当市の各河川は、生駒山脈と奈良盆地を源とする大和川を水源に、北または北西に流れ、千分の1程度の緩勾配で寝屋川に合流しています。ことに、恩智川を水源とする生駒山脈は、山林の過伐の結果、荒廃が甚しく、恩智川とその各支川の中流以下は、毎年流出土砂によって河床が上昇し、その排水能力の低下は著しいものがあります。これらの河川は、護岸、水制工などを施し、河床の安定を図り総合的な河川の改修が図られています。

長瀬川の改修は全国でも初めてという三分水方式で、中央に用水を流し、両側に工業排水を流すもので、38年春、7年目に完成しました。延長14.500m。

市内国道、府道、市道整備状況

38.10.1現在

道路別	内容別	路線数	延長	総面積	舗装率
国	道	2	10,145m	85,355m <sup>2</sup>	100%
府	道	13	33,504m	261,215m <sup>2</sup>	93.55%
市	道	611	216,834m	744,180m <sup>2</sup>	17.03%



整備された下水道





展望台

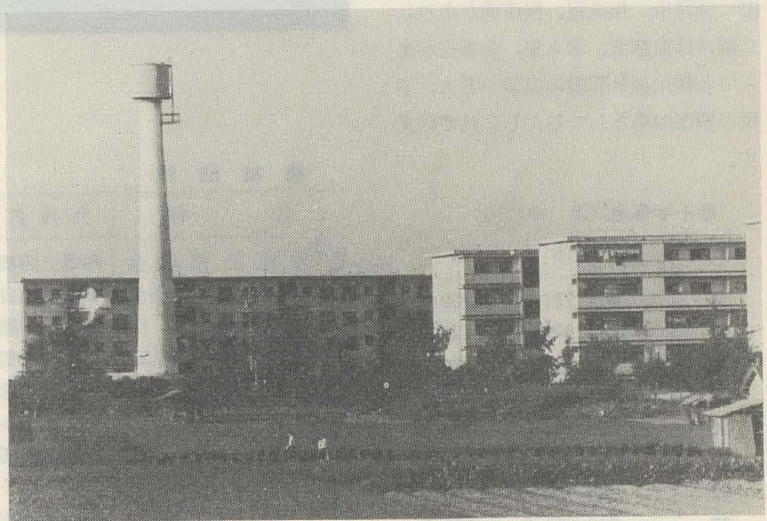
## 高安山の開発

当市の東部には、大阪府と奈良県の境になっている生駒山脈が南北にあって、ここに標高488mの高安山があります。

この付近一帯は、去る昭和33年春に金剛・生駒国定公園の指定を受けたのを機会に地域一帯を開発し、すでに完成した展望台と高安山登山観光道路のほか、ドライブウエー、遊園地、高安城の復活、各種の遊戯施設、動植物園、林間学舎、空中ケーブルなどを建設しようとするもので、六甲、有馬をしのぐ一大レクリエーションセンターの実現をめざしているいろいろな計画事業が進められています。

## 展望台と観光道路

高安山開発計画の初めとして昭和35年8月に信貴山ケーブルの高安駅から150mの所にツートンカラーの美しい展望台が完成したのを始め、高安山登山観光道路の建設に着手、すでに一部が完成し河内平野から大阪湾までも展望できる山麓一帯には



鉄骨アパート群

## 住 宅

市内の住宅不足数は、およそ5千戸と推定されますが、ここ数年来の人口の急激な増加で、住宅難は当分解消されそうにありません。

このため、市では公営住宅、公団住宅、府住宅協会住宅の建設や誘致をはじめ、住宅団地の開発、民間住宅の誘致などを積極的に進めています。

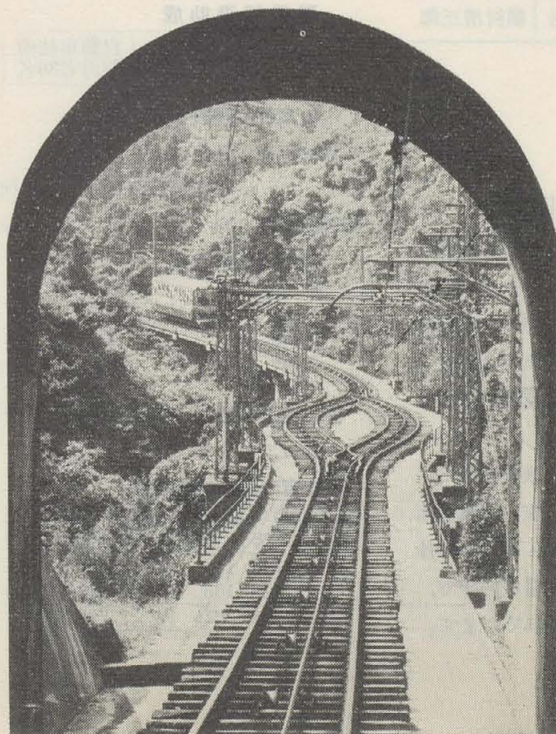
今年度は市営住宅の建設用地を確保し、39年度から40年計画で120戸を建設する予定で、同時に旧西郡地区改良住宅建設も42戸を予定しています。このほか、市住宅協会の分譲地（あけぼの団地）65区画、207mの造成事業を計画しています。なお、現在市内にある公営住宅数と宅地区画数は次のとおりです。

公営住宅数—38.3.31現在—  
△市営住宅233戸（第1種139戸）  
（第2種40戸）△引揚者住宅10戸、△改良住宅72戸、△府営住宅1,622戸、△府住宅協会住宅128戸、△公団住宅650戸、△府分譲住宅362戸。

△市住宅協会分譲—150区画、△府分譲宅地142区画。

将来の東大阪レクリエーションセンターとしての計画が進められています。

信貴山ケーブル



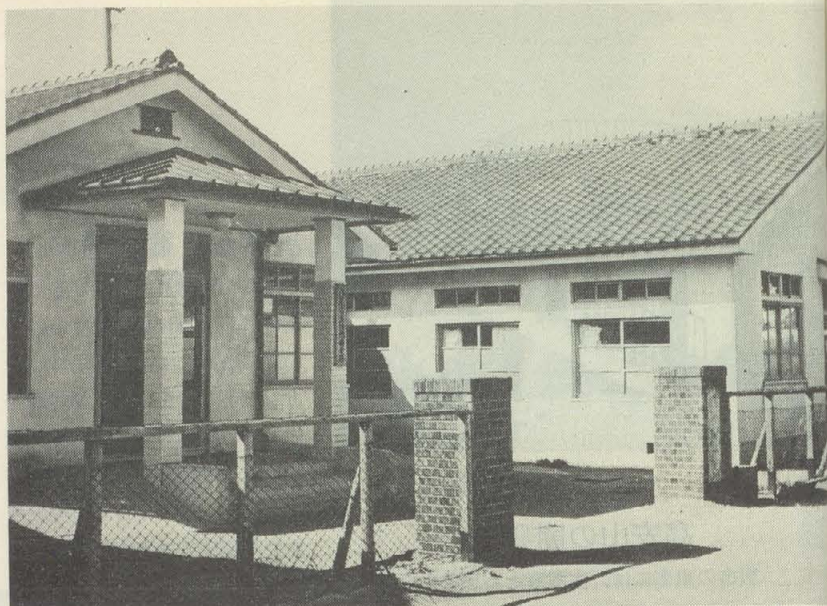


# 福祉活動



## 福祉会館

市立福祉会館は、昭和35年3月、福祉事業の総合センターとして、光南町1丁目に建設されました。館内には1階に事務所、相談室、授産場があり、二階には児童室、老人室、会議室があって各種の福祉問題の協議や老人、子供の娯楽の場としてたしなまれています。



福祉会館

### 赤十字募金状況 (単位円)

年度別	達成額	率
26	376,737	102%
27	572,072	121.2
28	609,118	130.9
29	524,768	112.2
30	657,281	113.8
31	670,662	109.3
32	748,000	100.0
33	748,075	100.0
34	788,964	100.8
35	1,005,490	116.9
36	1,071,980	124.6
37	1,084,064	126.0

### 共同募金状況 (単位円)

年度別	達成額	率
26	935,061	77.2%
27	1,122,471	86.9
28	1,001,109	78.3
29	900,448	72.9
30	1,011,419	81.2
31	1,137,277	90.2
32	1,168,048	87.1
33	1,268,875	91.8
34	1,395,518	100.9
35	1,655,618	119.7
36	826,554	59.8
37	1,678,125	120.9

### 福祉団体

名称	会長名
社会福祉協議会	西岡三四郎
民生児童委員協議会	平岡 鶴吉
赤十字奉仕団	池上長四郎
大阪府遺族連盟八尾支部	角谷常次郎
身体障害者福祉会	上田 治雄
未亡人会	大平 わか
保護司会	西岡三四郎
肢体不自由児母の会	芥当 操子
青少年問題協議会	大橋 清治
傷痍軍人会	塚本 常二
老人クラブ連合会	植村清三郎

## 心配ごと相談所

八尾市社会福祉協議会では、市民の日常生活の上におきるいろんな『心配ごと』を気軽に相談を受けて、社会福祉の増進を図ろうと『八尾市中心心配ごと相談所』を福祉会館内に開設しています。

相談日は毎週月曜日午後1時から午後4時までで、37年第2室戸台風直後に開設以来、同年度内5ヵ月間に72件の相談を受け、最近も非常に好評で、毎週2-4件の人々が訪れています。

## 同和事業

同和地区、とくに西郡の環境改善と、地区住民の生活と文化向上をはかるため、昭和35年度より市の重点施策として積極的に同和事業を推進しています。

### 同和事業資金

年度別	貸付件数	貸付額	資金
36年度	257	2,570,000	2,800,000
37	364	6,760,000	3,200,000

### 職業補導助成

昭和37年度	841,000円	自動車技術取得者36名
--------	----------	-------------

### 改良住宅建設事業

昭和36年度 鉄筋コンクリート造3階建24戸 2棟  
昭和37年度 同上 1棟

### 共同便所設置

年度別	戸数
35年度	11戸
36	12
37	7

他に道路整備及排水路改修事業等を行っています。

### 障害別身体障害者数

障害別	視力	聴力	言語	機能	肢体	体	計
性別	障害	障害	障害	障害	不自由		
男	213	113	14	504			844
女	215	108	5	250			578
計	428	221	19	754			1,422



元気に遊ぶ子供たち



## 福祉活動

社会の発展の中で、とり残された不幸な人達一病気やその他の理由で生活に困っている人、児童の問題で悩んでいる人、身体が不自由な人、主人を亡くした母と子、精神薄弱者、年老いた人達一の福祉問題は、いまなお、深刻な問題です。市ではこのような問題を総合的に解決する福祉センターとして、福祉会館を建設し、ここを中心に生活保護、児童福祉、身体障害者福祉、精神薄弱者福祉、老人福祉、戦傷病者戦歿者援護、引揚者援護、同和事業などを行ない、その活動を助長するために養護老人ホーム、保育所、母子寮、公益質屋隣保館、児童遊園などの施設を設けています。

## 児童福祉

母と子だけの家庭に、昼間職場にでて、子供の養育ができない世帯のために、母子寮3、保育所5があり、児童遊園地も市内に15ヵ所設けています。

母子寮一西郷母子寮（末広町1の15）、八尾隣保館三徳寮（南本町4）、

母木母子寮（恩智177）一定員計58世帯。

保育所一西郡保育所（幸町6）、亀井保育所（亀井568）、西郷保育所（末広町1の45）、八尾隣保館保育所（南本町4）、志紀保育所（田井中428）

遊園地一顯証寺、慈願寺、常光寺、長柄神社跡、北山本、志紀、老原、大窪、大平、矢作、東弓削恩智、教典寺八尾木、成法寺

## 老人福祉

よるべないお年寄りを慰め、安らかな生活を営んでいただくため、従来の生活保護法の枠から抜けて、新しく老人福祉法が制定され、今までの養老院が老人ホームに変わりました。収容中のおとしよりの表情も更に明るくなりました。お年寄りの健康保持とともに広く知識を身につけていただくために老人大学を開いたり、地区の老人クラブを結成するよう努めており、現在すでに54クラブ約3000人の参加をしています。

のために必要な措置をとるなど老人の福祉を図っています。

## 市立養護老人ホーム

所在地	定員	設 年 月 日	建 築 面 積	敷 地 面 積
安中83の1	40	昭 28.1.31	m <sup>2</sup> 645	m <sup>2</sup> 12,165

## 生活援助

生活が苦しく国の保護を受けなくては暮しのたゝない人たちは、当市内にも約1万6千世帯ありますが、病気が原因となっている層が多く、医療援助費は総額（83,956,946円—37年中）の半分以上を占めています。

種別	世帯	人員
生活扶助	5,658	15,189
住宅扶助	3,430	10,390
教育扶助	2,376	6,889
医療扶助	4,303	5,127
出産扶助	5	5
生産扶助	43	43
葬祭扶助	18	18
計	15,833	37,661

# 福祉活動



## 労働会館

労働会館が建設されたのは府下衛星都市でも最も早く、すでに三年を経過します。会館は年毎に利用者がふえ、また利用者の層も次第に広がって、市内の労組、婦人会、青年団、各種文化グループなどの出入が毎日絶えません。主な行事としては、フォークダンスとコーラスの集い、働くものの美術展、八尾労働学校、婦人料理教室などがありますが、結婚式や披露宴の場としても大いに利用されています。



## 結婚式場

市立労働会館内の結婚式場

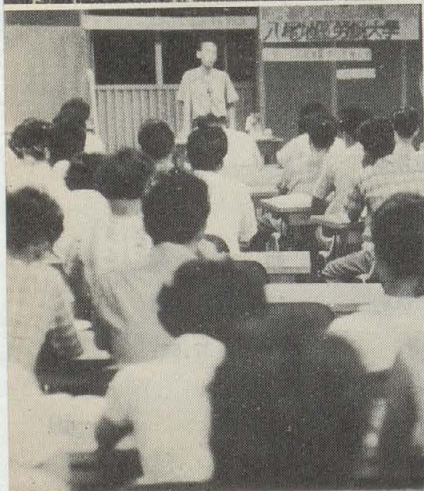
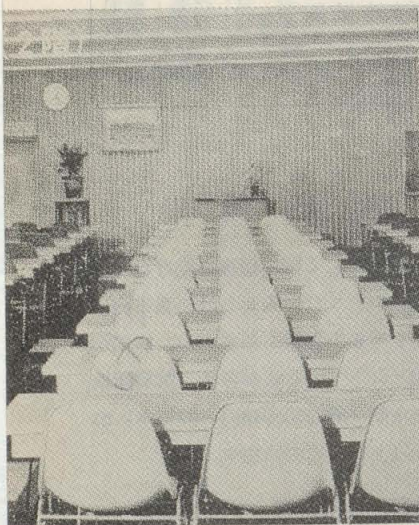
無駄な費用をはぶき、生活改善を目的に式場松寿殿が設けられました。この式場は、ともすれば、披露宴が主となり挙式が従になっている古い方式を改め、挙式を本体にするよう努め、同時に安い費用で厳粛な式が行なわれるようにと運営されています。

## 隣保館

市民の政治的、経済的、文化的生活を引上げ、健全な市民生活の育成を図るため、昭和38年1月、桂町2丁目37番地に設置しました。総工費は約1,300万円で、一階には会議室、和室、相談室、事務室があり、二階にはロビー、図書室、集会室があります。また別館に料理教室と青少年娯楽室を付設し、別掲のような諸事業を総合的にこなっています。

### 隣保館の主な事業

生活相談、児童問題相談、職業相談、保健衛生相談、学童保育、小学生学習教室、中学生補習教室、夜間中学、子供会活動、フォークダンスとコーラスの会、成人よみかき教室、青年学習会、洋裁教室、料理教室、生花教室、老人クラブ諸活動、社会調査、簡易結婚式場、貸室、図書室

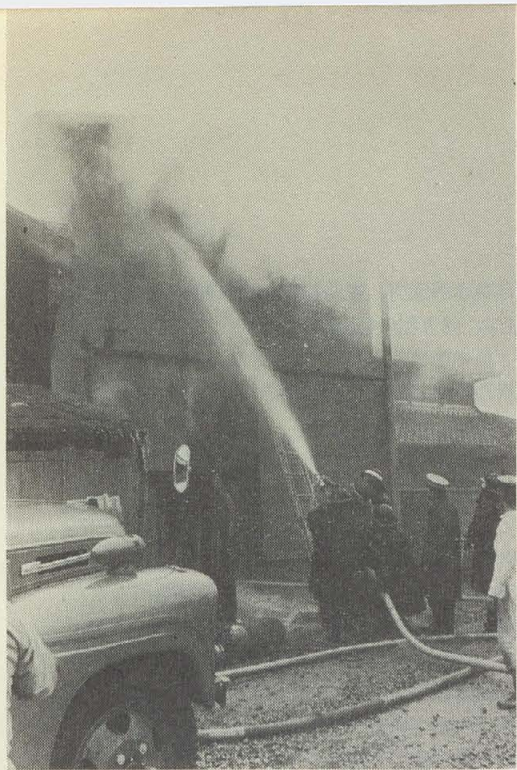


上左 会議場

上右 料理学級

下左 八尾地区労働大学

下右 市美術展

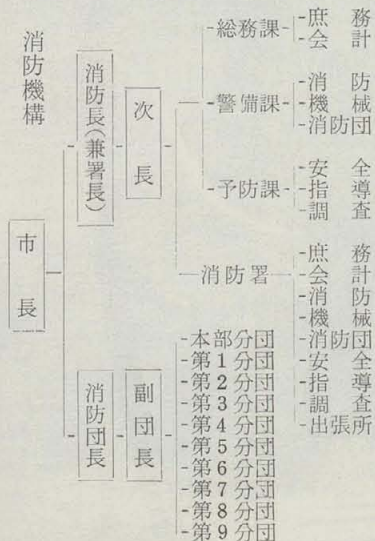


現場で活動する消防士

## 消 防

消防活動は、昭和23年3月の消防制度の改革によって、これまでの警察部門からはなれ、八尾町など9町村で組織した組合消防によって始められました。まもなく八尾市の誕生によって八尾消防署と改称されました。

消防本部と消防署は、いま栄町2丁目にあり、出張所は山本町にあります。職員は消防長を含めて69人です。



### 機 動 力

ポンプ自動車6, ガソリンポンプ3, 救急車1, ほか3, 消防団ポンプ自動車4, 三輪消防車8, ガソリンポンプ7。

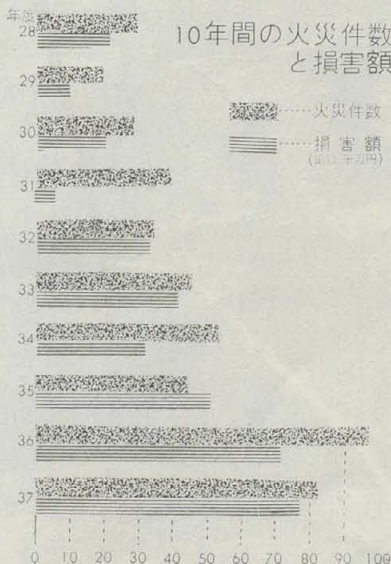
### 大阪市と消防協力

大阪市との行政協定によって、昭和37年1月25日、両市の消防相互応援協定が調印され火災が起れば両市の消防署は、区域外でもお互いに応援することが

とりきめられています。応援の範囲は、当市内では恩智川以西、大阪市域では東住吉区の加美、長吉出戸町、六反町となっています。

### 火 災 件 数

市内の火災件数は、人口の増加、家屋の増加につれて、過去10年間、次第にふえてきています。昨年は火災80数件で、その損害は7千万円を越えています。発展途上にある本市としては、な



おこの傾向が続くとみられますが、防火対策、消防設置の充実はもとより、燃えない街、防火建築の普及が望まれます。

## 警 察

昭和23年、市制の施行と同時に八尾市警察署が設置され、自治体警察の役割を果たしてきました。昭和28年警察法の改正によって、大阪府警察に切替えられ、旧中河内地区警察署の管内の大部分を加え、現在では、八尾市全域を管轄しています。署員は署長のもとに、警部3, 警部補7, 巡査部長16, 巡査84, 職員9, 計120人です。

### パトカー



### 駐在所と派出所

駐在所 (17) …北高安 (大竹789), 服部川 (服部川254), 福万寺 (福万寺町3の74), 北山本 (山本町北4の21), 教興寺 (教興寺299), 恩智 (恩智300), 八尾木 (八尾木278), 田井中 (老原130), 幸町 (幸町3の109), 萱振 (萱振町3の123), 久宝寺 (久宝寺2577), 植松 (植松263), 太子堂 (203), 亀井 (261), 竹淵 (竹淵224), 木本 (木本378), 太田 (太田1461)

派出所 (7) …志紀 (弓削712), 国鉄八尾駅前 (安中99), 近鉄八尾駅前 (本町7の122), 山本 (1の151), 本町 (本町1の99), 久宝寺口 (末広町4の44), 南山本 (山本高安町1)

## 史跡と名所

### 心合寺山古墳

心合寺山古墳（シオンジヤマコフン）は、市の東部山麓、大竹部落の西北方、標高約30㍍の緩傾斜面にある南向の前方後円墳で、南北の長さ約130㍍、後円部の経47㍍、高さ11㍍、前方部の幅56㍍、その高さ8㍍、全周に段状の濠がある市内で最も大きい古墳です。墳丘はいまでは開墾されて畑になっていて、埴輪円筒の破片や葺石と思われる平面な石が散らばっています。この古墳の遺物、内部構造については、何も聞き伝えがありませんが、恐らく堅穴に石棺が納まっていたものでしょう。

この古墳の前方は長くのびて後円部径の2倍近くになっています。この古墳は形や場所からみて最盛期である中期の遺物でありましょう。

この外、当市内には600余の古墳があり、市内の高安地区にかたよって存在しています。その位置を東西の高低からみると5区に分けられます。第1区—標高15~20㍍—この間の西端は東高野街道で古墳はここから始まっています。第2区—20~50㍍—心合寺山、千塚などがあるが数は少ない。第3区—50~100㍍—数は急にふえて、西ノ山、花岡山、向山などがあり、特に大窪、山畑、服部川、郡川の領域に横穴式円墳が群集しています。第4区—100~150㍍—核山、開山塚などがあって数的には最高。第5区—150~200㍍—神立から郡川までの間は相当数存在しますが、これから東へ登るにしたがって、数は急に減り、350㍍のところでは全くなくなります。

これらの古墳は、その外形からみて、円墳と前方後円墳とがあり、内部の構造から堅穴式と横穴式に分けることができます。そしてその99%までは横穴式古墳で、前方後円墳は5指を数えるだけです。

空からみた心合山古墳の全景

